法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-29

<会員談話室>ハワイ島2景

SATO, Norihito / 佐藤, 典人

(出版者 / Publisher)
法政大学地理学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
JOURNAL of THE GEOGRAPHICAL SOCIETY OF HOSEI UNIVERSITY / 法政地理
(巻 / Volume)
40
(開始ページ / Start Page)
67
(終了ページ / End Page)
68
(発行年 / Year)
2008-03-10

〔会員談話室〕

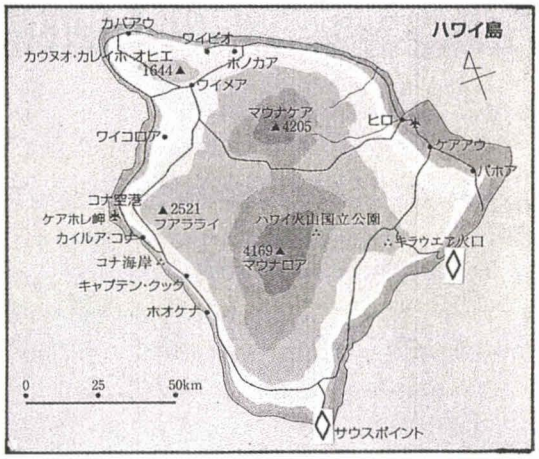
ハワイ島2景

“東海岸に在るのに「ウエストポイント」とはこれ如何に？”と謎かけにでも登場しそうなこの地名は，米国陸軍士官学校の存在する場所としてご存知であろう．ならば「サウスポイント」はどうであろうか？

米国・ハワイ州ハワイ島は，ハワイ諸島の中で面積的に最大の島なので“ビッグアイランド”とも呼ばれている．この島の南端の岬が「サウスポイント」なのである．正式にはカラエ(Ka Lae)岬と言われているが，地理的に米国で最南端ゆえに上の呼称はイメージに合っている．この岬がフロリダ半島沖のキーウェストよりも南だったとは，クイズに出そうな勘違いしやすい事実である．

写真1はこの岬近くでの光景である．このモンキーポッドツリーの根元は左端なので，随分と窮屈そうに湾曲したものである．この緯度帯は定常性の高い偏東風(＝貿易風)のゾーンであるから，また，標高の高い火山を抱える島の端で風の吹送に対する地形効果も加わって，風速が強いと想定される．その結果がこの偏形樹の誕生であろう．実際，この近傍には風力発電のプロペラが林立しており，それこそ昨今話題のクリーンエネルギーの生成に一役を担っているようである．とても象徴的な気候景観と言えよう．

私的にも，気候ゼミの有志とも何度か訪れたこの島は，ホットスポット起源の溶岩が噴出する活火山の島としても知られている．現実に島の南東部のキラウエア火山は“火の女神・ペレの怒り”と島民に畏怖される噴火で，間々溶岩を噴出させる．キラウエア火山の広大なカルデラ壁を一周した後，チェーン・オブ・クレーターズ・ロードを南下して行くと，周囲に黒々とした溶岩の原っぱが広がってくる．時折，ポツンと孤独を愛するか如く樹木が1本取り残されて，まるで「孤高」という言葉はこの樹のためにかと見入ってしまう．



第1図　ハワイ島の概略図

写真1　ここまでくれば一人前？
(サウスポイント近傍での偏形樹．2002年3月14日・佐藤撮影)

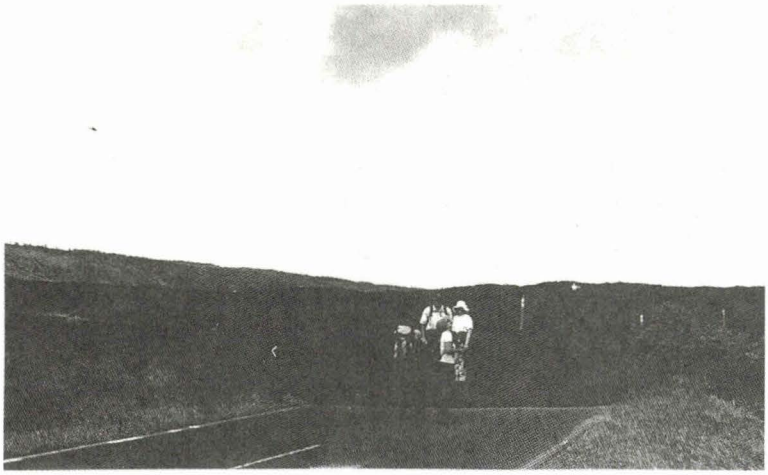


写真2　ゆえあって行き止まり！
（溶岩に塞がれたクレーターズ・ロード．2002年3月15日・佐藤撮影）

急坂を下りて太平洋の荒波が眼前に迫ったかと思ったら，突如，写真2のようにこの道路は行止り．正面にエンド・オブ・ザ・ロードの表示とは，とても分かり易い．キラウエア火山の南東方向に口を開けたプウ・オー・オーから噴出した溶岩がこの先の道路を塞いでしまった．流動性に富む灼熱の溶岩が大海原に流れ落ちて水蒸気をあげる光景を目の当りにするには，ここから先，生命安全の保障無しでカラパナまで徒歩を余儀なくされる．もっとも危険に冷や汗をかいても足下の暖かい地熱で冷や汗とはなるまいが？

眼前の大洋を南東方向へさらに海底にまで辿るとロイヒ海底火山が活動を続けている．この海底火山の噴火は1970年代に入って知られてきた．地球史的にはそう遠くない将来，この島の南東沖合にその激しい怒りの雄姿を現わすであろう．

旅の途中で“火の女神・ペレ”に命を捧げるわけにも行かないので，カラパナまでの徒歩横断は断念した．来た道を途中まで引き返し，日系人の街として知られるヒロに向かった．途中，俄に雲行きが怪しくなり，瞬く間にシャワーのレイとも言うべき歓迎を受けた．いつ来てもこの辺でハンドル操作も危ぶまれるほどの激しいスコールに見舞われる．しかも，それはほぼ昼下がりの時間帯である．察するに気象学的な降雨の発生機構の中で，これは『暖かい雨』であろう．雨域と車のマッチレースを終えるとヒロの街が虹の彼方に見えてきた．

この街はハワイ第二の都市であり，日系住民の多い街としても知られている．かつて火山山麓の広大な緩傾斜地を開墾したサトウキビ畑の労働者として，この地へ日本人の移民が認められたことに端を発している．巨大なバニヤン・ツリーの街路樹を眺めつつ通りを進むと港に出た．車を降りるとじっとりと汗ばんで蒸し暑い．東寄りの貿易風の風上側に当たるこの地は，とても降水量が多くて緑も豊かである．その点で西側の乾いたカイルア・コナとは極めて対照的である．欧米人が避けたほどのこの湿気の多さは，この島の植生の東西差を招いている．いつ訪れてもこの島の周回は「地理屋」にとって示唆に富む小巡検となる．

［**佐藤　典人**・法政大学文学部地理学教室］